

謹 賀

年頭のご



美祢市長 村田 弘司

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、清々しい新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素から、市政推進に対し多大なご理解とご支援を賜っておりますことに、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は流行語大賞に「今でしょ!」「じぇいじぇい」「倍返し」「お・も・て・な・し」の4つの言葉が選ばれましたが、この他にも多くの流行語が生まれました。市民の皆様はどの言葉がお心に残っているでしょうか。

流行語が多く生まれたということは、安倍首相の経済政策であるアベノミクスの効果もあって、景気が上向き、世の中が元気になってきた証ではないかと思っております。

東京が、2020年夏季オリンピック開催都市に決定したことは、わが国がますます元気を取り戻していくことを予感させる象徴的な出来事だったと思います。

一方で、7月に山口県萩市・山口市、島根県を襲った豪雨災害、季節外れの台風による伊豆大島やフィリピンの災害など異常気象による大災害の発生、また、近隣諸国との安全保障上の問題など、安全安心が脅かされた年でもあったと思います。

このような社会情勢の下、本市におきましては、第1次美祢市総合計画の基本理念であります「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祢市」の実現に向けて、昨年は特に「国際交流の推進」「六次産業の創出」「ジオパーク活動の推進」をトリプルエンジンと位置付け、力を注いで参りました。

まず、「国際交流の推進」では、3月に台北駐福岡経済文化弁事処長（総領事）立会いの下、国際競争力を備えた観光地を目指して、山口市と「観光・交流パートナー都市協定」を締結いたしました。

4月には、台湾南投県水里郷江龍漢（こうりゅうかん）郷長一行を、みね桜まつりの開催に併せてお招きし、「友好交流の

促進に関する確認書」を締結し、さらには市制施行5周年記念式典に来賓として戎義俊（えびす よしとし）台北駐福岡経済文化弁事処長をお招きし、ご祝辞をいただいております。

8月には、中学生14人と引率の教員2人が、市民海外研修で台湾を訪問し、水里郷の中学生との交流や一般家庭にホームステイするなど言葉や文化の違いを超えて交流を深めております。

その他、8月に本市の秋吉台・秋芳洞を視察に来られた沈斯淳（しん しじゅん）台北駐日経済文化代表処代表（駐日大使）との情報交換、10月の福祉の市での台湾物産展の開催や文化交流の実施、11月の台湾南投県水里郷の友好交流訪日団との情報交換など積極的に国際交流を推進して参ったところです。

4月から8月までに秋芳洞を訪れた台湾の人が、前年より約千人増えており、着実に成果が出てきたと感じております。

12月には、市・商工会・観光協会・青年会議所で組織する「美祢国際観光・交流推進協議会」を設立いたしました。今後認知度向上プロモーションなどの取り組みにより、台湾、韓国との観光交流人口のさらなる拡大や物流、技術交流の促進を図ってまいります。

次に「六次産業の創出」では、4月に「美祢市六次産業化基本計画」に策定し、取り組みを進めて参りました。

11月には、農林業者、商工業者の六次産業化への関心を高め、チャレンジの後押しのためにと専門家を講師に美祢市六次産業化セミナーを開催したところ、多くの人にご参加いただきました。

現在、「美祢ブランド」認証に向けた準備を進めており、これにより、国内はもとより海外にも通用する市民の誇りとなりうる特産品、地域ブランドの確立を図り、農林業者・商工業者の所得の向上、担い手の育成、さらには雇用の拡大に繋げて参りたいと考えております。

次に「ジオパーク活動の推進」では、日本ジオパーク認定を目指して、4月に申請書を提出し、その後5月の公開審査、8月の現地審査を経て、9月24日に審査結果の報告を受けました。まことに残念ではありますが、認定を見送るというものでした。

審査結果報告書には、ジオパークとして不十分な点や良いジオパークを目指すために改善が必要な点が指摘されており、これらを踏まえ、市役所の機構改革や全庁的な推進本部の設置などにより推進体制を整備するとともに、山口大学や県との連携を強化して取り組みを進めているところです。

なお、ジオパークが目指す「持続可能な地域社会の実現」は、行政や大学などの学術機関だけでは、到底達成できるものではなく、市民の皆様や事業者、各団体の皆様のご理解や積極的なジオパーク活動への参画が必要不可欠と認識しております。

そして、産官学民一体となってジオパーク活動を積み上げて、準備が十分に整った時点で再度日本ジオパーク認定の申請を行いたいと考えておりますので、引き続き皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

以上、昨年の主な取り組みを申し述べましたが、昨年は市制施行5周年の節目となる年でありました。4月に多数の市民の皆様にご参加いただき、記念式典を盛大に開催することができました。他にも多くの記念事業、冠事業、協賛事業を開催いたしました。関係者の皆様、市民の皆様にはご協力誠にありがとうございました。

今年の干支は馬ですが、汗馬の労をいわずに、市政運営に取り組みで参る所存でありますので、市民の皆様にご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

本年が、市民の皆様におかれまして、健康で喜びに満ちあふれた一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

新年

あいさつ

美祢市議会議長 秋山 哲朗



美祢市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成26年の年頭に当たり、美祢市議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新春を、お健やかに迎えの心からお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、第2次安倍内閣による、いわゆる「アベノミクス」の成果により、円高やデフレ経済から脱却し景気は上向いているとの報道がされているものの、地方にはその実感は未だ遠く、さらなる財政出動による景気対策に期待しているところです。

さらに、本年4月から消費税率が8%に引き上げられるなど、我々の生活に直接影響する改革も進んでいます。今後も、東日本大震災からの復旧・復興が加速されながら、税と社会保障の一体改革が議論され、皆様に応分の負担が求められようとしていることを危惧しています。

一方、富士山が世界文化遺産に登録されたことや、6年後の2020年、東京で56年ぶりにオリンピック・パラリンピックの開催が決定するなど、明るいニュースも飛び

込んで参りました。

美祢市におきましては、北九州市に本社を置く物流事業所が新たに操業開始したことや、市内2カ所目になるメガソーラー発電所の建設が始まるなど、企業誘致活動の成果は上がっているものの、依然として厳しい雇用情勢と経済状況にあることは否定できません。

この中で、台湾台北市の「美祢市台北観光・交流事務所」が開所から2年を迎えることから、秋芳洞・秋吉台への海外からの観光客、とりわけ東アジアからの観光客は着実に増加しており、今後さらなる観光交流人口の拡大や、物流につながるものと期待しているところです。

さて、美祢市議会は議会基本条例に基づき、様々な取り組みを行っています。まず、市政に関する重要な政策及び課題に対し、議会として共通認識を図り、合意形成を図るため「政策討論会」を開催しています。昨年は、「美祢観光開発(株)及び美祢農林開発(株)の振興並びに水道料金の統一について」を議題とし、4回の討論を重ねて参りました。その結果、「美祢観光開発(株)及び美祢農林開発(株)の振興について」の提言を取りまとめ、市長に提出したところです。

なお、水道料金の統一については、美東地域及び秋芳地域簡易水道の硬度低減化方法を上下水道事業局が調査していることから、今後、継続的に討論することにしていきます。

また、年間6地区で「議会報告会」も引き続き開催していますので、どうぞお気軽に会場にお越しいただき、皆様の率直なご意見やご要望をお伺いしたいと思います。

近年は地方分権が推進され、まちづくりについて自己決定と自己責任の原則が拡大しています。市議会は、市長と同じく市民の直接選挙で選ばれた二代表制の一翼を担うものです。このことから市が抱える過疎・少子高齢化や福祉・医療の充実など、直面する行政課題を解決しながら、皆様が安全で安心して暮らしていただけるよう、執行部と議会の両輪で諸政策を着実に実行して参りますので、議会活動に対しましてより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年を迎え、市民の皆様のご健勝とご多幸を、議員一同心よりご祈念申し上げまして、年頭に当たってのごあいさつといたします。